全学年 単元名「つなみに備えよう　」（４時間）

1　単元設定の理由

三陸復興国立公園種差海岸に隣接する本学区では、大地震の後、発生するであろう津波に備え、自分の命は自分で守る術を身に着けておく必要がある。これまでの学校安全教育の中に、海洋教育の視点、つまり、「海を知る」ことを取り入れていくことが大切である。海の素晴らしい面だけでなく、デメリットや怖さ、恐ろしさもしっかり知る必要があると考え、この単元を設定している。

2　単元目標

① 学校、家庭、地域内で地震が起こった場合、どのような行動をとるべきかを理解できる。
② 津波警報が発令された場合の避難の仕方や場所が分かり、行動できる。
③ 津波の恐ろしさやメカニズムを知ると共に、どうやって防ごうとしているのかを理解できる。
④ ３．１１を忘れることなく語り継ぎ、自分の命は自分で守るという意識を高めて行こうとする。

3　単元の評価基準

ア：各町内ごとの津波避難場所が分かったか。
イ：津波に対応した避難の仕方や行動ができたか。（絶対に戻らないこと）
ウ：津波のメカニズムと防災の考え方が理解できたか。
エ：防災教育の日を通して、自分なりの減災を考えたり、体験できたりしたか。

4　単元の指導計画

時	学習活動	指導上の留意点
1	○町内児童会ごとに集まり、町内の海岸線にいた場合、津波注意報・警報が出たとき、どこまで避難するかを確認する。 ・白浜・・・神社、生活館 ・種差、棚久保・・・種差少年自然の家 ・深久保・・・種差小学校	・４月の参観日の時間を活用して実施。 ・職員は５月の通学路確認時、避難場所を確認し、把握する。 ・家族との連絡方法を決めておく。
1	○大地震を想定した避難訓練を行う。 ・教室内での待避の仕方、ハンドマイクでの避難指示 ・校庭への一次避難 ・大津波警報発令を想定した二次避難（生活館まで） ・さらに、その上を目指した三次避難（平原開発道路）	・深久保町内と連携しての実施 ・児童館や近所に避難を呼びかけながら、走っての避難 ・リヤカーを使った避難も実施 ・鮫分署車両見学等の見学を行う場合もある。
1 本時	○つなみの起こり方と防ぎ方を学ぶ。 ・東京大学工学系研究科社会基盤学：佐藤慎司　教授による防災出前授業『津波と沿岸防災』 ２０１６．８．２３（火）１０：３０～１１：２０ 本校２階・ランチルームにて開催	・低学年児童へスライド内容の補説を行う。 ・刺激に強い画像を見せないように配慮する。
1	○防災教育の日の授業や活動を通して、自分の命は自分で守る意識とその術を高める。 ・避難所開設体験→簡易段ボールベットづくり 実際に寝てみる等	・毎年、３月１１日 ・講話だけでなく、児童に考えさえたり、体験や作業をさせたりする活動も入れていく。 ・家族との話し合い、家での防災アンケート等も実施していく。 ・避難所開設マニュアルの活用

外部連携 ／ 教材等
東京大学海洋教育アライアンス、八戸市防災対策課との連携